



身につけよう手洗い習慣 ～今から始める感染対策～

健康科学大学 看護学部
災害看護学学生チーム
DNST

経緯／問題意識



都留市観光協会キャラクター
「つるビー」

【経緯】

- 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、多くのメディアなどで感染対策について報道されている。
- しかし、適切な知識をもち日頃から感染対策を実践できている人は少ないのではないかと考えられる。
- 感染予防の一つである手洗いの手技や重要性を一人ひとりが根拠をもって気づいてもらう必要があると考えた。

【問題意識】

- 災害はいつ起こるか予測が難しいため、突然の災害時でも対応できるような習慣づけが必要である。
- 避難所という3密を避けることが困難である状況においても、市民が積極的に感染対策を意識し、感染を予防する必要がある。

目的/目標



【取り組みの目的】

- 手指がどれだけ汚いのか可視化し理解してもらうことで、手洗いの大切さを知ってもらうこと。
- 避難所生活で、市民一人ひとりが正しい感染対策(手洗い)を行うことができ、**感染を予防**すること。

【達成すべき目標】

- 都留市民が正しい**手洗い**の手技を**習得**することができる。
- 日頃から正しい手洗いをする習慣を身に付けることができる。

主な活動内容



いつ：8～12月

(基準：緊急事態宣言が発令されてなく、県内感染者が1日あたり10人未満)

どこで：都留市まちづくり交流センター 4階 大ホール

誰が：災害看護学学生チーム(DNST)メンバー

誰に：都留市各地区代表者2～3名 計20名程度

何を：正しい手洗いの知識・技術の指導

どのように：

①普段通りの手洗いをを行い、グリッターバッグを使用し、手指の汚れを確認する。

②事前に作成した、手洗いの知識・技術に関する動画を用いて、講義を行う。

③正しい手洗いをを行い、再度グリッターバッグを使用し、正しい手洗いの意義を確認する。

④講義終了後にアンケートを取り、活動に対する評価を行う。

～講義終了後～

⑤参加者に講義で使用した動画やパンフレットを記載した資料を配布する。

⑥研修会で習得した手洗いの手技や⑤の資料をもとに伝達講習の依頼をする。
(伝達講習時に地域からDNSTメンバーによる講義の依頼があれば地域に出向く。)

⑦都留市の各避難所に、手洗いの方法を記載したポスター(ラミネート加工)を配布する。

アピールポイント



社会性	地域の方々に対し学ぶ機会を設け、多くの人に正しい手洗いの知識・技術を習得してもらうことで、日常的に感染対策を行えるようになる。
主体性	学生が主体となり、都留市民に手洗いに関する講義・演習を実施する。
具体性	対 象：都留市民(講義参加者は、都留市各地区代表者2～3名 計20名程度) 使用物品：グリッターバグ本体・グリッターバグ専用蛍光ローション・ ハンドソープ・マスク・手指消毒剤・次亜塩素酸ナトリウム・ A3ラミネートフィルム・A3コピー用紙・ゴミ袋・ペーパータオル 所要時間：1時間程度 内 容：正しい手洗いの手技や、必要性について講義・演習を行う。 導入(5分)→実技演習(10分)→講義(20分)→実技演習(10分)→ まとめ(15分)
実現可能性	本サークルは、これまでに2年間の実績(BLS研修会・応急手当訓練)があり、 都留市民から期待されている。 また、本サークルはすでに 都留市役所と連携が取れている ため、協力し合い 市民に向けた取り組みを実施することができる。
効果	都留市民が日頃から感染対策の意識を高めることで、災害時も一人ひとりが 感染対策を講じる事ができる。



その他

事業実施時は、以下の感染対策のもと、活動する。

- ①事前に学生が講義動画を撮影することで、当日は対面して講義することがない。(飛沫感染予防)
- ②参加者を限定することで、集団にならず、実施することができる。
- ③参加者（学生も含む）は事前に体調確認を行うこと及び、マスクの着用義務や手指消毒を実施する。
- ④大ホールを使用し、参加者が密接にならないよう配慮する。
- ⑤ホール内は窓等を開け、しっかりと換気を行う。
- ⑥机や椅子などの使用物品は、事前に消毒作業を行う。